

令和2年度 自己評価公表シート

認定こども園 光輪幼稚園

1. 本園の教育・保育目標

生きていく力の基礎となる、豊かな人格形成に必要な「こころの成長」(思いやりのあるやさしく素直な心を育てる)、「あたまの成長」(考える力を育てる)、「からだの成長」(健やかな体力作り)を基本とした教育・保育を行い、一人ひとりの個性を導き出し、大きく伸びていくようにする。

2. 本園の重点的に取り組む目標・計画

幼保連携型認定こども園教育・保育要領および園の全体的な計画を踏まえて、教職員がその内容を確認しながら共通理解を図り、認定こども園全体の教育・保育を高めるとともに、教職員の資質向上に努める。また、認定こども園として、保護者や地域から理解されるよう努める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況 (職員による評価の平均値を掲載)

A:十分達成されている B:達成されている C:取り組まれているが、成果が不十分 D:取り組みが不十分

	取り組み内容	評価
教育・保育の充実	教育・保育理念に基づき、園の全体的な計画を作成し、職員間で共通理解を図っている。	B
	園の方針や特色を指導計画や保育実践に生かそうとしている。	B
	遊びの中で言葉や文字・数字に興味をもてるようにしている。	B
	身体を動かす機会を十分に確保し、身体を動かす楽しさを味わえるようにしている。	B
	子どもの表現を積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにしている。	B
	栽培活動や調理活動など食育活動を推進している。	B
	配慮が必要な子どもに対して、職員間で共通理解を図り、適切に対応している。	B
	安全管理や防災活動を適切に行っている。	B
保護者・地域との連	園の教育・保育方針について、保護者に分かりやすく伝えている。	B
	園の教育・保育方針や園の情報をおたよりやホームページ等で地域に発信している。	B

	保護者のニーズの把握に努め、職員間で共通理解を図り、要望や苦情に適切に対応している。	B
	小学校と連絡会や研修会、交流会等の機会を設け、連携に努めている。	B
	地域の行事への参加や世代間交流の機会を積極的に設けている。	C
保育者の資質	子どもの育ちと人権を第一に考え、保育にあたっている。	B
	まわりの人の良いところを見つけ、感謝する姿勢をもっている。	B
	自分の感情を把握し、受け入れたうえで、冷静にコミュニケーションしている。	B
	職務上知りえた個人情報を適切に取り扱っている。	B
	資質向上のために保育の情報収集や自己研鑽を積極的に行っている。	C

4. 令和2年度を終えるにあたって

光輪幼稚園は、令和2年度より認定こども園に移行し、新しいスタートを踏み出したが、新型コロナウイルスの感染拡大により、登園自粛や行事の縮小などがあり、あわただしい一年となった。この状況でも、子どもたちの成長を見ていただけるように職員間で話し合い、保護者の方々にもご協力いただき、行事を行うことができた。

職員間や保護者間での子どもの育ちの共有をする機会があまりもてなかったこと、研修会の中止により、研鑽の機会が少なかったことが課題として挙げられる。今年度の反省を踏まえ、子どもの育ちを第一に、保育の在り方を考えていきたい。